
宇宙人の要求

こめ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

宇宙人の要求

【Nコード】

N8167C

【作者名】

こめ

【あらすじ】

ある日、空に現れたおびただしい数の円盤。宇宙人の。はたして彼らの目的とは……。意外なオチのショートショート小説。

宇宙人の要求

(前書き)

お気軽に評価のほどを

なんの前触れもなくそれは現れた。

空に浮かぶおびただしい数の物体。誰の目にも、宇宙人の円盤であることは明らか。

ただちにテレビ中継車がやってきて、全世界に放送される。

これから何が起こるのか。かたずを飲んで見守る人々。

やがて、変化がある。円盤からガツガツと、無機質な機械音。人々の頭の中へひびく声。

「地球の者を差し出せ。百人ほどは必要。ある星へ、連れて行くのだ」

同時翻訳した言語をちよくせつ脳に伝えているのだろう。仕組みは分からないが、素晴らしい技術。どの国の人々にも、宇宙人の言っていることは理解できた。

声はつづく。

「さもなければ、地球の者を全滅させる」

驚愕以外の、なにものでもない。たちまち全世界は騒然となる。

友好的な宇宙人も知れないとの期待は裏切られ、悪い予感の方が当たってしまったのだ。

「期限は三日。それまで我々はここで待機しておく」

すぐに各国の代表者が集まり、緊急会議が開かれる。

「地球の者を差し出せと言ってきているが、奴らの目的は何なのだ」

「強制労働か、人体実験か、とにかくよいことに使うとは思えない」
ひとりの者が同意する。

「そうだろうな。我が国ではあらゆる手段を講じ、彼らと連絡を取ろうとしたがムリだった。なしのつぶて。うんとも、すんとも言つてこない。後ろめたいところがあるのだろう。だいいち、連れて行く者たちにヒドイことをしないのなら、最初で目的を告げているはず。地球の者を全滅、という言葉に彼らの残酷さが現れている」

もうひとりの者が立ち上がった。テーブルをどんと叩いて、主張する。

「奴らの要求は飲むべきではない。決まりだ。理不尽に過ぎる。人を差し出してみる、エスカレートしていくぞ。次は二百人、今度は三百人。地球人は無条件で言いなりになると思われたら、おしまいだ。ぜったいに戦うべき」

その場の者がみな、うなづく。

戦闘態勢が整えられる運びとなった。

まずは、軍事力に優れたある国がミサイルを発射する作戦。最新型であり、今のところ世界でいちばんの強力さ。円盤を全滅とまではいかないが、かなりの機体を破壊できるに違いない。

敵に動揺が走ったところで総攻撃。各国が、力を合わせ。

世界中には兵器が充ち溢れている。ケチケチしないで撃って射つてうちまくればよい。これは、戦争だ。

翌日、その国の大統領が電話で命令を下す。

「やれ」

ボタンが押されると、基地からミサイルが上がった。物凄いスピ

ード。円盤めがけ、一直線。

が、その当の円盤はミサイルが近付いても避ける気配すらない。避けようとしたところで、追撃機能も搭載しているのだが。

そして、ものの見事に命中。真ん中で爆音がとどろく。もうもうたる煙。

やったか、と誰もが目を凝らす。煙が、薄まっていく。

中から、元の位置に円盤が現れた。どれもこれも無傷。

ある一機からは緑色の光線が発射される。大統領の国の基地へ。たちまち巨大な穴があいた。あとには何も残っていない。消し去る、という表現がピッタリ。

円盤からは声。

「ムダな抵抗はするな。素直に人を差し出せ。期限はあと二日」
圧倒的な力の差。なすすべもない。科学力が違い過ぎる。戦った

ところで、犬死にするだけ。

ふたたび会議が開かれる。

「どうすればよいのだ。時間は、わずかしかない。奴らの弱点をさぐるのも、新しい兵器を開発するも不可能。要求を飲むしか、ないのか」

「うむ。仕方あるまい。人類が、滅ぼされてしまう」

あの国の大統領が言う。

「奴らほどの力があれば無理ヤリにでも人をさらっていける。要求をしてきたのには、何か理由があるのでは。何度も繰り返したり、エスカレートしたりするとも限らない。一度きりで終わることだつて考えられる。理不尽なことに、変わりはないが」

みなは、あれやこれやと意見を出し合う。

かりに宇宙人へ生け贄を差し出すとすれば、どこの国から人を選ぶのか。みな、自分のところから出したくないのは当然。責任は、問われたくない。

国同士の力関係で弱いところから、というのも当然ダメ。のちのち国際問題化して、大変なことになる。どのような大義名分も、通るわけがない。

「ならば各国から一人づつ」という案が出る。公平に。これも、人選の壁にぶつかる。まさか国内においてクジ引きで決めることはできない。

合理的に考えれば未来ある者より、余命いくばくもない者の方がよかるう。生け贄には。しかし、人倫にもとる行為。

それは罪を犯した服役中の囚人も同じ。彼らにだって、人権はある。

死刑執行囚でさえ死ぬまでは人間。宇宙人の生け贄にするべき者ではない。そんな法律など、どこにもない。

かくして、ほとんど何もまとまらないまま運命の三日目を迎える。円盤からの機械音。ひびく声。

「残り二十四時間。光線の発射準備に入る」

空に浮かぶ円盤の丸い下部がいつせいに光り始めた。緑色。あの国の基地が一瞬にして消え去った恐怖が、人々の中へよみがえる。

もはや助からないのか。このまま、死んでしまうのか。泣き出す者、呆然自失とする者、神に祈る者。絶望の色が、濃くなっていく。と、ひとりの者が円盤の下へ歩み出る。慈善活動をおこなっている聖職者。彼女は言う。

「わたしを連れて行きなさい」
今まで円盤の様子を映していたテレビカメラがすべて、向けられる。

彼女は胸の前で手を握り合わせ、ひざまづいた。ためらいのない落ち着いた表情。全世界へ、放送される。

立派なおこない。自分の身を犠牲にして、人々を救おうとしている。なかなか出来ることでは、ない。

これが呼び水になったのか、どうなのか。次々に人がやってくる。一人、二人、三人、四人……。

ある小さな国の元首は胸を叩いて言う。

「ワシも、連れて行け。国民を守らなければならないのだ。国を血で汚したくない。命など、おしいものか」

やってくる者たちは老若男女さまざま。職業も、国籍も。男女の割合は半々くらい。みな、人を救いたい一心。

二十四時間の後には、軽く百人を越えている。

今度は、円盤の下部の一点が白く光り出す。緑色に白。

何が起ころのだ。もしやあの時の光線よりも、もっと強力なやつなのか。

約束が違う。連れて行かれる者は、集まっている。気に食わないところでもあったのか。

人々は、肝を冷やして成り行きを注視する。

円盤から、集まった者たちへ次々と白の光線が当てられた。体が、宙に浮く。吸い込まれていく者たち。

やがて円盤からの声。

「我々が想定していたなかで理想的なかたち。星へ連れて行く者たちは、十分に集まった。繁殖に必要な条件を満たしている。任務完了。我々との別れ。永久に」

おびただしい数の円盤は雲の向こうへと消えてしまった。

狂喜する人々。抱き合い、肩を叩き合い、なかにはキスをする者も。命が助かったと、涙が止まらない。

宇宙人は言っていた。「我々との別れ。永久に」。もう二度と、地球にはやってこないのだろう。そういうふうしか、解釈できない。連れて行かれた者たちはどのような目に合うのか。それは分からないし、知りようもない。

しかし、彼らに対し感謝の念で溢れている。彼らは、身を呈して人々を救ってくれた英雄なのだ。立派な像と碑を作り、後世にその名を残していこう。

多くの人々がそう考えていた時、空がピカリと光った。

あっ、という間もない。発射された光が地球を緑色に包むと、そこにいた人々はみな死んでしまった。

円盤の中で宇宙人は言う。

「戦争ばかりしているあの星をそのままにしていたら、いずれ我々にも害が及んでいたことだろう。宇宙にまで憎しみを持ち込まれたら、困るのだ」

もうひとりの宇宙人がうなずく。

「うむ。しかし科学を発達させるだけの知能はあった。完全に、馬鹿というわけでもない。うまくいけば我々と友好関係を結び、利益になることだって」

「要求をしたかいがあった。三日間だけチャンスを与えたかいが。我々が本当の意味で望んでいる通りになった。それ以外なら、全滅させるしかなかったのに。人を差し出されても」人間たちを振り返る。「自己犠牲精神の持ち主ばかり。移住先の星で、争いごとを起こす心配もない。平和な世界を作りあげてくれるはず。今回の件も、

宇宙人の要求

教訓にして」

「そつだな。この者たちに期待しよう。そして、その子孫たちに…」

…了…

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167c/>

宇宙人の要求

2009年6月27日03時35分発行